

平成 29 年度第 2 回浦安市児童センター運営懇談会会議録

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 平成 30 年 1 月 18 日（木）午後 6 時 30 分～7 時 30 分
- 開催場所 高洲公民館（エスレ高洲内） 2 階 研修室
- 出席者 8 名 委員名
 - （委員） 菅原委員（浦安市小中学校校長会）
 - 中島委員（民間有識者 NPO 法人 i-net）
 - 岡田委員（民生委員・児童委員協議会）
 - 山田委員（青少年相談員連絡協議会）
 - 松良委員・小泉委員（子ども会育成連絡協議会）
 - 熊川委員（こども部保育幼稚園課長）
 - 高柳委員（こども部青少年課長）
 - （事務局）（こども部児童センター）
 - 東野児童センター：河野所長・小池・飯塚・海老原・奥山・中里
 - 高洲児童センター：高梨所長・小泉・飯沼・村松・小出
- 開会
- 東野児童センター所長挨拶
- 会長挨拶（菅原会長）
- 議 事
 - （1）平成 29 年度事業報告について
 - （2）平成 29 年度事業計画案について
 - （3）その他
- 閉会

◎議事（1）平成 29 年度事業報告について

主な事業報告は以下のとおり

事務局（東野）：資料 9 ページ 6、「お父さんも一緒に赤ちゃんサロン」で実施した「赤ちゃんアート」について

生後 3 か月から 1 歳 6 か月までの赤ちゃんとその保護者を対象に、毎週火曜日に「赤ちゃんサロン」を開催しており、日頃忙しいお父さんにも子育てに積極的に参加してもらえるよう年 4 回土日に「お父さんも一緒に赤ちゃんサロン」を開催している。その中で衣装や帽子などを身に付けて変装した赤ちゃんが、テーマに沿った背景に寝転んだ状態で写真を撮る「赤ちゃんアート」がとても好評である。赤ちゃんアートを目指して初めて来館される方が、児童センターの存在を知るきっかけにもなっている。

事務局（東野）：資料 11 ページの 3、の制作のうち、お裁縫教室について

以前お裁縫教室に参加したこどもの保護者からの要望やシルバー職員の発案で、お裁縫の時間を作った。小学 5 年生以上を対象に花のかたちのブローチを作り、10 月からは小学 3 年生以上に対象を広げ、コースター作りを楽しんだ。こども達はアドバイスを受けながら、とても集中した時間を過ごしており、お裁縫に興味を持つこどもが少しずつ増えているように感じる。今後も、こども達が色々なことにチャレンジできるように手助けをしていきたい。

事務局（東野）：資料 12 ページの 7、少子化対策事業のうち、ふれあい体験「赤ちゃんとおそぼう」について

小学 5 年から高校生までの生徒が命の大切さ、赤ちゃんの発達について助産師や保育士の講義を受け学んだあと、実際に赤ちゃんに触れ合う。今年度は全 6 回で 64 名の小中高生、そして 185 名の赤ちゃんとお母さんが参加した。昨年度、新町の学校の参加が少なかったため、先生に協力をお願いし、小学校に関しては、参加校が増えた。

（事業で使った妊婦ジャケットと、首が座っていない 3 キロの赤ちゃん人形を实际見ていただいた。）

事務局（高洲）：資料 20 ページの 2、てくてくくらぶについて

平成 29 年度より、2 歳児を対象とした登録制の親子サークルを開始した。保育士主導での遊びの提供、季節行事にちなんだ工作や運動、リズム遊びなど、年齢に即した活動を全 8 回行なった。参加人数は前期 10 組、後期は定員を上回る申し込みがあったため、クラス数を増やし、2 クラス 20 組が参加した。回を重ねるごとに安心できる居場所として定着した。

事務局（高洲）：資料 20 ページの 5・6、高洲公民館共催事業について

複合施設内の立地を活かし、高洲公民館共催事業である「赤ちゃん育児応援講座」は全 7 回で、講師による睡眠・おもちゃ選び・食育・生活と健康についての講座と、児童センター職員による育児座談会や親子のふれあい遊びを行なった。

その他「パパと子のわくわくランド」では講師によるリトミック・運動遊び・クッキング、児童センター職員によるクリスマスのアドベントカレンダーを作った。

事務局（高洲）：資料 22 ページの 5、高洲わんぱくキッズについて

平成 29 年度は小学 1 年生から中学 1 年生までの 20 名が登録している。わんぱくキッズ会議ではサンタクロースの装飾をまた、来館の皆さんを対象に「輪つなぎツリー」工作を行い、輪をつなげて公民館交流空間に飾った。

◎議事（2）平成 29 年度事業計画について

◎議事（3）その他

事務局（東野）：来館する高校生について

高 3 男子、小学生のころから児童センターによく遊びに来ていた。中 3 で勉強に専念することを理由に、部活を辞めさせられたことで反抗的になった。ドッジボールをするためにリーダー性を発揮して遊びの中心になっていた。それが行き過ぎボスの存在になり、威圧的な行動や言動でよからぬ集団を形成した。高校に入り来館する回数が少なくなり、仲間も徐々に減ってきた。18 歳で来館できなくなるということで、今年度、夏休み頃から急に来館し始めた。来館時、革靴では遊戯室に入れないと注意すると、次回から運動靴を持参するなど素直な面も見られる。児童センターは、赤ちゃんの時から大人になるまで成長を見ることができる強みがある。小さい時を知っていると思春期になっても親近感があるため、よい見方ができるところに児童センターの良さがある。

事務局（高洲）：緊急地震速報について

1 月 5 日（金）の 11 時 2 分に携帯電話の緊急地震速報が鳴り、各職員が、「部屋の中央に集まるように」声をかけ、放送でも伝えた。冬休みのため各部屋に小学生、幼児、親子がいたが、概ね指示通りに部屋の中央に集まることできた。

公民館からも全館放送が入った。地震速報が発表され、数分間様子を見た後に再度放送が入り通常利用に戻った。

ふれあいルームにいた幼児が遊びを中断させられたこと、様子が違うのを察したのか、不安な様子が見られたので、スタッフがお話や手遊びで不安を和らげた。

定期的な避難訓練の成果が出せたが、今後も引き続き様々な状況を想定して訓練を継続する必要性を感じた。

会長：委員である保育幼稚園課長にお話しをいただきたい。

委員（保育幼稚園課長）：保育園では、待機児童が問題になっている。東日本大震災後人口が減少し、未就学児数も減ったので待機児童も減少したが、その後徐々に増加している。保育園を新たに建設し入園児童数を増やしているが、新たな保育需要を生んでいることもあり、なかなか減らないのが現状である。国は、32年度までに待機児童0にという計画を出している。保育園の待機児童は増えているが、幼稚園、こども園への就園児童数が減ってきている。家庭での保育が減るという逆転現象が生じている。保育幼稚園課は、両方の施設を担当しているため、待機児童が増えて悩んでいるところと、就園率が減ってきて悩むという相反する悩みがある状況である。

閉会